

平成18年度 施策評価シート

総合計画における位置付け等

平成18年10月26日記入

基本目標	ゆとりある みどり豊かな環境共生都市をめざして	施策コード	22210
政策名(章)	第2章 水やみどりの保全と創造に努めます	評価担当部	土木部
基本施策名(節名)	第2節 みどりと調和した水辺空間づくり	評価担当課	河川整備課
施策名	自然に配慮した河川環境の創造	課長名	神保 政雄

1 施策の目的・概要(目的はわかりやすく記入)

河川の自然環境の保全に努め、みどりあふれる個性豊かな水辺空間を創出し、うるおいのある川づくりを推進する。
 治水の安全性を確保し、河川に生息する多様な動植物の生育環境を保全する多自然型川づくりを、一級河川道保川や準用河川八瀬川等を実施している。

2 事業費・人員

年度	平成14年度(決算)	平成17年度(決算)	増減の主な理由
事業費		141,876	・国庫補助金の減額 ・他施策への移行 ・事業の取り止め
人件費		15,054	
市民一人あたりの事業費	671	235	
合計	413,486	156,930	

*人件費は、職員一人あたり H14:839万円、H17:805万円として算定。人口は、61.6万人(H15.4.1現在) 66.7万人(H18.4.1現在)とした。

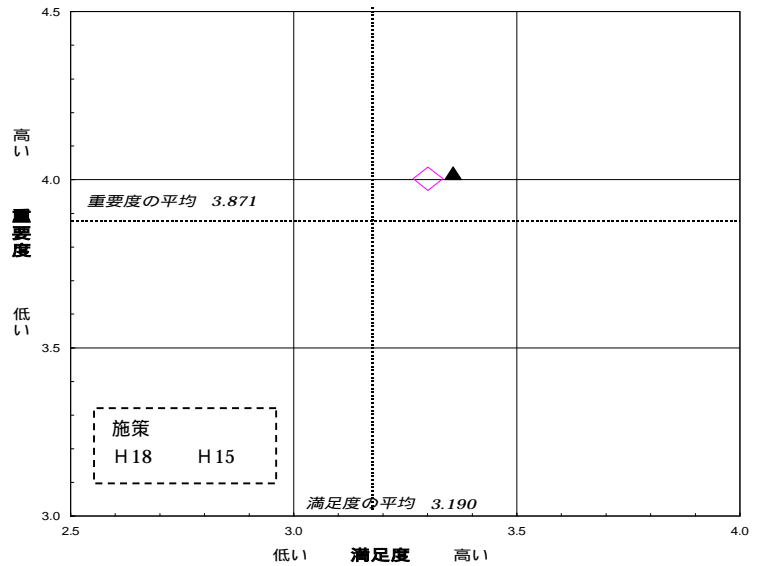
3 成果・活動指標

	指標名	指標の基準値の定義	基準値(単位)	基準年度
指標1	多自然型整備を進める河川改修の進捗率	改修済延長(H15まで) / 改修計画延長 1752m / 3026m × 100	1752m 57.9%	15
指標2	浸水家屋発生率	浸水家屋が発生しなかった回数/降雨により発動された警戒体制の回数 H16:2回/2回	2回 100%	16
指標3				
指標4				
指標5				

	H17目標値/実績値	中間年度	中間年度の目標値	最終年度	最終年度の目標値	目標値の考え方(根拠)
指標1	131 / 131	19	120m 延べ 2067m (68.3%)	21	215m 延べ 2526m (83.4%)	計画的な改修工事により、治水の安全性を確保し、かつ多自然型河づくりを推進する。 浸水家屋の発生率により、河川の改修工事による治水対策の効果を確認する。
達成率	100%					
指標2	2 / 2	19	2回(100%)	21	2回(100%)	
達成率	100%					
指標3						
達成率	#DIV/0! %					
指標4						
達成率	#DIV/0! %					
指標5						
達成率	#DIV/0! %					

4 市民満足度調査結果(平成18年度実施分)

この施策の満足度は3.301で51施策の中で12番目。
 重要度は4.003で21番目である。
 改善要望度は0.0147で23番目である。
 年齢別にみると、満足度は70歳以上がもっとも高く、重要度は20歳代、70歳以上で高い。
 30、40歳代では満足度、重要度ともに低くなっている。
 前回調査と比較すると、満足度は施策の順位が下がり、重要度は大きな違いはみられない。
 満足度の順位では、60歳代で前回調査より大幅に下がっている。
 重要度の順位では、70歳以上で前回調査より大幅に上がっている。



5 1次評価(3つの視点から評価を行う)

視点の種類	評価基準・着眼点	評価点	それぞれの視点に対して評価の具体的根拠
有効性	各事業が果たす施策に対する目標の達成度合いを把握し、効果の高い事業を実施している	4 1	河川改修工事が当初の計画どおり進捗したことによる。(指標1)
効率性	最少経費で最大効果が得られる事業構成となっている	2 1	事業の投入コストは減少したが、平成14年度および平成17年度においても浸水家屋(床上、床下を含む)はなかったことから、同様の事業成果があったと考えられるため。(指標2)
市民満足度	市民満足度調査により市民ニーズを把握し、市民の立場に立って事業展開している	2 1	多自然型の川づくりを施した箇所では川遊びに興じる子どもたちや散策を楽しむ市民の姿をみることができ、また、アダプト制度により組織された団体により自らおこなわれる除草等の活動からも川に対する市民の愛着を感じることができる。このようなことから高い満足度を頂いているのだと思う。
合計		10	評価結果に基づく区分(4項目の合計点数による) A(12から10点) B(9から5点) C(4点以下)
			1次評価 A

* Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向

6 課題と解決策(現状または、評価結果から)

課題	
解決策	

7 2次評価及び意見(1次、2次で評価に相違がある場合など、必要に応じて意見を記入)

設定された指標が施策目的と適合していない。また、設定された指標の目標値の水準が甘く高評価となっている。事業実施後の動植物生態系の変化等の成果を表す指標など、事業の結果だけでなく、施策目的に適合した指標の設定を検討する必要がある。その上で、事業効果を見極め、効率的な事業実施に努める必要がある。	2次評価 B
--	-----------

* Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向

8 3次評価及び意見(評価結果及び課題・解決策について、必要に応じて意見を記入)

	3次評価
--	------

* Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向

構成事務事業一覧

構成事務事業	事務事業 担当課	H15施策 の 優先順位	H15人員 (人)	H14決算額 (千円)	H18施策 の 優先順位	H17人員 (人)	H17人件費 (千円)	H17事業費決 算額(千円)	H17決算額 (千円)
一級河川鳩川・道保川改 修事業(再)	河川整備課	再掲	2.30	381,118	1	1.84	14,812	136,037	150,849
雨水浸透施設設置助成事 業	下水道管理課	再掲	0.01	1,228	2	0.01	81	791	872
雨水浸透能力調査費	主本計画課	再掲	0.07	600	/	/	0	/	0
道保川公園管理運営費	公園課	再掲	0.20	18,738	/	/	0	/	0
相模川河川敷清掃事業 緑地等維持管理費	みどり対策課	再掲	0.02	11,802	再	0.02	161	5,048	5,209
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
計			2.60	413,486	/	1.87	15,054	141,876	156,930
合計			2.60	413,486	/	1.87	15,054	141,876	156,930

自然に配慮した河川環境の創造

コード 22210

構成事務事業一覧

構成事務事業	事務事業 担当課	H15施策 の 優先順位	H15人員 (人)	H14決算額 (千円)	H18施策 の 優先順位	H17人員 (人)	H17人件費 (千円)	H17事業費決 算額(千円)	H17決算額 (千円)
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
計			0.00	0		0.00	0	0	0